

韓国黄土について

中国と日本の間にある韓国に黄土が存在するかどうかについて、韓国の地理学者・地質学者・考古学者の間で議論が交わされることが多くなったようである。

韓国の西隣にあたる中国には黄土が広く分布しており、山東半島や遼東半島などにも厚い黄土層が堆積しているため、素直に考えれば、韓国に黄土が存在しないことを説明するほうが難しい。近年、とくにひどくなったようであるが、韓国には毎年のように黄砂が飛来して、のどや目の痛みなどの体調不良を訴える人々が多いと聞く。

私は1984年夏に慶州・扶餘などで黄土を調べ、その結果を翌年のペドロジスト誌に発表したことがある。その後、ソウル大学のPark助教授が韓国中西部の益山で黄土研究を始めている。彼とは3度ほど会う機会があり、韓国黄土についての共同研究を提案されたが、私のほうが忙しくて結局実現しなかった。しかし、彼は独力でGeojournal誌に黄土論文を発表したので、これで韓国黄土研究が軌道に乗るかに見えたが、その後まもなく30代の若さで病没したことを1989年に黄土高原で行われたワークショップで一緒になったKim教授から伺い、大変驚いた。

その時、同行していた韓国教員大学のOh助教授が1994年に全谷里黄土について論文を発表している。彼とは2003年に開かれた韓国全谷里遺跡シンポジウムで再会することができたが、フランスで学んだ国際派の彼にもかかわらず、研究に打ち込む生活から遠ざかってしまったようで、残念に思っている。

私のほうは、1996年から慶州や浦項などで黄土調査を再開し、2000年からは延世大学のYu教授と院生であったShin君と共同研究を進めるようになった。Shin君は黄土研究で韓国初の学位を取得し、2005年度の韓国地質学会賞を受賞している。2002年からは国境に近い全谷里で同志社大学・漢陽大学との共同研究を、2004年からは木浦市に近い長洞里で同志社大学・木浦大学との共同研究を進めている。そして2004年から慶熙大学と慶北大学の先生方とも共同研究を進め、慶熙大学の院生Park君が熱心に現地調査を行っている。

こうした研究の結果、韓国にはMIS 11(約40万年前)からの黄土-古土壌が堆積していることがはっきりしてきた。これらの研究結果は、韓国学会誌や国際誌に発表し、あるいは発表予定であるので、今後、韓国において急速に黄土研究が進展するのではないかと期待している。

—韓国土産に黄土石炭がある。黄土と呼ばれる土は昔から医薬面で利用されており、長洞里の調査地のすぐ近くにも黄土採掘地がある。私はこれが黄土そのものではないかと考えているが、採土現場を訪れたことがないのではっきりしたことはわからない。どうやら黄土は韓国の人々の間で知られた存在であり、地理学者や地質学者が知らなかっただけではないだろうか—
(成瀬 敏郎)